富良野市学校施設長寿命化計画 概要版

1. 学校施設の長寿命化計画の目的

目的	これまでの対症療法的な事後保全から計画的な予防保全へと維持管理方法を転換し長寿
	命化により財政負担の縮減や平準化を図ります。
計画期間	令和2年度から概ね10年間を第1期の取組として、適宜見直しを行います。
対象施設	小学校 9 校、中学校 4 校

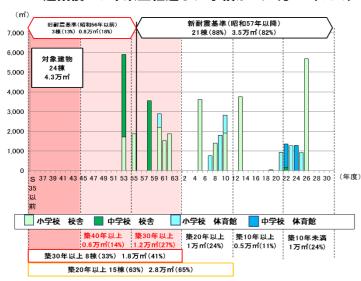
2. 学校施設の目指すべき姿

- ① 安心・安全な施設、環境に配慮した施設整備
- ② 多様な学習内容や形態に対応した教育環境の施設整備
- ③ 地域とともにある学校づくり

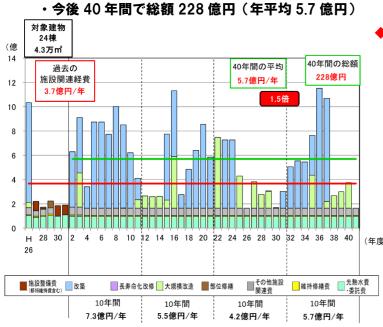
3. 学校施設の実態

◆学校施設の年度別保有量

・建築後 20 年以上経過した学校が 2.8 万㎡(65%) ◆学校施設の課題



◆従来型の管理を行った場合の維持・管理コスト



- ①屋上防水や設備配管等の老朽化
- ②内外装材の老朽化及び落下防止対策の 非構造部材の耐震化
- ③学校施設の防災機能強化
- ④多様な学習内容や形態に対応した教育 環境の整備
- ⑤トイレの快適化、バリアフリー化に対 応した教育環境の質的向上
- ⑥省エネ・創エネ・蓄エネを活用した環 境負荷の低減
- ⑦長寿命化の推進による財政支出の削減 と平準化
- ⑧少子化による児童生徒数の減少による 適正規模・適正配置の推進

◆主な部位別劣化状況

外部:屋根塗装、屋上防水、外壁仕 上げの劣化

内部:窓の開閉不具合、建具の老朽化 設備:経年劣化による配管、キュービ ビクル等の電気設備の更新、換 気設備など

4. 学校施設整備の基本方針

①学校施設の規模・配置計画等の方針

今後の児童生徒数の減少を踏まえ、地域とともにある学校づくりの視点から、学校の統廃合については保護者・ 地域との共通認識・理解のもと慎重に検討を行っていきます。

②改修等の基本的な方針

i)長寿命化への転換

- •「事後保全」型から「予防保全」型の『計画的な整備』
- ・学校施設の使用年数を80年に延ばす『長寿命化』改修を行います

ii) 目標使用年数·改修周期の設定

目標使用年数及び改修周期を下記のように設定します

		目標使	改修
	区 分	用年数	周期
木造・S造及びRC造	旧耐震 (コンクリート圧縮強度 13.5N/mm ² 超~20N mm ² 未満)	70 年	35 年
RC造	旧耐震 (コンクリート圧縮強度 20N/mm 2以上~30N mm 2未満)	75 年	37 年
RC造	旧耐震(יולענ ト圧縮強度 30N/mm 2以上) 及び新耐震	80年	40 年

iii) 学校施設の基本整備項目

1安全性・耐用性の確保と維持

- ・ 外壁改修: 仕上げ改修 (板金貼り、塗装等)、クラック補修
- ・内装改修:床・壁(木質化)・天井改修、建具改修、収納家具などの補修・更新
- アスベスト対策
- 防犯対策
- ・ 避難所としての安全対策及び設備対応

②機能性・快適性の確保と維持

- ・受変電設備等、暖房設備の整備、給排水管・設備等の更新
- 放送設備機器や各配線の更新
- ・トイレ改修
- 多様な学習内容・形態及びコミュニティ活動に必要なスペース
- ICT環境の整備
- ・校地及びグラウンドのフェンス及び雨水排水対策

③環境・省エネへの配慮

- ・窓の省エネ化、断熱性能の向上
- ・ 設備の高効率化(高効率ボイラーの更新)
- 自然エネルギーの活用

 $\sim 1 \sim$

富良野市学校施設長寿命化計画 概要版

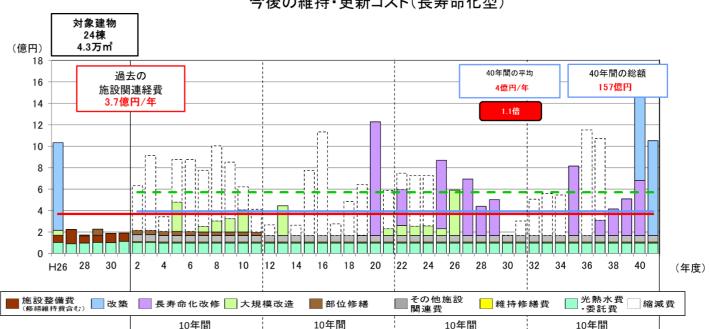
5. 年次計画の策定

◆10年単位の年次計画(案)

24.4.5	//. =n./-	<i>佐</i>	第1期	第2期	第3期	第4期
学校名	施設名	築年数	(2020~2029)	(2030~2039)	(2040~2049)	(2050~2059)
富良野小学校	教室棟	41	長寿命化改修		屋根・外壁修繕	改築
	管理棟	18		大規模改造		改築
	体育館	8		屋根・外壁修繕		
扇山小学校	管理教室棟	26	屋上・外壁修繕 教室等(木質化)			
	体育館	22	屋根・外壁・設備修繕	長寿命化改修		大規模改造
東小学校	校舎・体育館	5			大規模改造	
麓郷小中学校	管理教室棟	21	屋根・外壁修繕	長寿命化改修		大規模改造
	体育館	6		屋根・外壁修繕		
布部小中学校	管理教室棟	34	\ \		10 = 1	
	体育館	21	適止	規模・適正配置を	検討	
鳥沼小学校	管理教室棟	23		長寿命化改修		大規模改造
	体育館	22		屋根・外壁修繕		大規模改造
布礼別小学校	管理教室棟	33	屋根・外壁修繕	海正	規模・適正配置を	k á 計
	体育館	34	屋根・外壁修繕		元侯 旭正癿巨と	IX n'1
樹海小学校	管理教室棟	39	義務教育学校整備	長寿命化改修		
((仮称)樹海学校)			屋上修繕			
	体育館	24		屋根・外壁修繕	大規模改造	
山部小学校	管理教室棟	32		長寿命化改修		大規模改造
	体育館	10		屋根・外壁修繕		大規模改造
富良野東中学校	管理教室棟	41		長寿命化改修		改築
	体育館	7		屋根・外壁修繕		改築
富良野西中学校	管理教室棟	36	長寿命化改修		屋上・外壁修繕	改築
	EV棟	12		屋根・外壁修繕		改築
	技術室棟	9		屋根・外壁修繕		大規模改造
	体育館	9		屋根・外壁修繕		大規模改造

◆長寿命化によるコスト縮減効果

・40年間で総額 157 億円となり、従来型の管理(228 億円)と比べて約 71 億円の縮減



3.1億円/年

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

6. 長寿命化計画の継続的運用方針

2.8億円/年

① 情報基盤の整備と活用

学校施設における状態や過去の改修・修繕等の履歴、不具合状況をデータベース化し、保管・蓄積し施 設関連情報を一元管理します。

4.5億円/年

5.3億円/年

② 推進体制の整備

建物の長寿命化を図るために必要となる継続的な点検や計画の更新に際して、学校施設の整備・管理の 所管である教育委員会学校教育課が中心となり、建築担当部署とも連携しながら、学校施設のマネジメ ントを推進していきます。また、日常管理や定期的な点検の充実に向け、施設管理・点検マニュアル等 の整備を進めます。

③ フォローアップ

本長寿命化計画は、学校施設の改修等の優先順位を設定するものであり、実施にあたっては庁内合意を 得るなかで、実施計画等での予算措置を行い事業実施していきます。

こうしたことから、事業の推進状況や点検結果等を考慮して計画をフォローアップし、必要に応じて見 直しを図るものとします。